

大貫啓行先生への謝辞

経済学部長

下田 健人

大貫先生は、1996（平成8）年、麗澤大学経済学部に教授として着任された。大学に来られる前は、国家公務員として30年間勤務され、主なポストとして、在北京1書、警視庁外事I課長、内閣調査室国際部主管、防衛庁調査I課長、警察庁教養課長、秋田・長崎県警本部長、特別捜査幹部研修所長、警察庁国際部長（初代）、中国管区警察局長などが挙げられる。中国政治及び経済事情に精通しており、また、危機管理に関する多くの役職を経験された。

2011年8月27日、大貫先生は日本テレビ『世界一受けたい授業』に出演された。タイトルは、『いざという時の為に知っておきたいマル秘対処法 あのボタンを押してみたらどうなる？』である。先生のご専門である危機管理を、テレビ視聴者向けにわかりやすく説明された。麗澤大学では、法学、政治学、日本国憲法などの授業を担当されたが、いずれの授業も200人を超える学生が履修し、まさに、世界一受けたい授業であった。

大貫先生は、2000年4月から、就職部（現在のキャリアセンター）の部長として活躍された。就職部部長の就任挨拶として、以下のメッセージを職員に送った。

1. 『建学精神を实践する場としての職業観の確立』をサポートしたい。

建学精神とは、「高い志をもって、自らを鍛えていく」先見性であり、情熱である。ズバリ目指すところは『智徳一体の社会人』である。どこに就職しても、『国際協力・国際貢献』の志をもつことが麗澤人である。さらに、機会をとらえ『恩』（生かされていることへの感謝）、『公』（社会貢献・奉仕の精神）を考える人材を育てたい。学生諸君には、『自立・自律』した志のある人生を送ってもらいたい。

2. 『全学一体』で就職支援を取り組みたい。

全教職員の理解と協力のもと、『何時でも、どこでも、誰でも』という意識をもつ。授業であり、ゼミであり、クラブなどの課外活動であり、いかなる場面においても、就職部が学生全員の就職支援を行っているというメッセージを送りたい。

3. 『学生主体』という一貫した教育の中で就職支援に取り組みたい。

学生に求められるのは『自立』である。自立することを理解し、自立する喜

びを感じてもらいたい。いつまでも親のすねをかじるのではなく、自分自身のかけがえのない1回きりの人生に向き合ってほしい。教育者（就職部）は、学生に自信を持たせる指導を行う。つまり、考えさせる、身体を動かせる、経験させる、ことである。自立を促す教育を通じて、元気・自信・チャレンジ精神（の芽）を育てたい。

4. 発信能力を開発する。

社会人として必要な常識やマナーを身につける。就職活動に際して、もっとも求められるのは、相手を理解する、話す、書くといった基本的なコミュニケーション能力に加えて、相手を不快にさせない思いやりである。就職部が、このような発信能力を開発する場にしたい。

5. 学生の目線でとらえる心がけを。

当時学生たちに流行したのは厚底ブーツであった。多くの教員が、厚底ブーツに不快感をもったが、就職部では、厚底ブーツを受け入れて、学生の就職相談に乗ることが肝要だと強調した。学生の「長所を発見」し、かつ「押しつけない」「諦めない」態度が求められる。家族のような雰囲気の中で就職支援を心がけたい。

就職部長として、大貫先生は、いつも明るい笑顔で、学生を就職活動に送り込んだ、と当時を知るキャリアセンターの職員が話してくれた。

大貫先生の授業が世界一受けたい授業であるならば、大貫ゼミも学生からの人気が高いゼミであった。あるゼミ生のエピソードである。

ある時のゼミの授業は、多摩霊園で行われた。現地集合で、埋葬されている著名人のお墓をお参りしながら、先生が当時の時代状況、故人の考え方、行動などを丁寧にゼミ生に解説したという。

大貫ゼミには、警察官志望の学生が多く、ゼミの毎回の授業で就職指導があった。ゼミでは、挙手制でショートプレゼンテーションが毎回行われた。プレゼンテーションにおけるトピックスの内容に制限はなく、5分程度話をして、プレゼンテーションした内容について質疑応答する。ゼミで毎回行われるプレゼンテーションの実践を通じて、ゼミ生全員が仲良くなった。多忙な日常の中で、ゼミでの忘年会や食事会にも積極的に参加していただいた。

多くの人には知られていないが、大の駅伝ファンである。麗澤大学が駅伝への参加を表明して以降、毎年、箱根駅伝の予選会の応援に参加している。

世界一受けたい授業を聞いた学生たち、世界一入りたい大貫ゼミ生たち、そして、先生に励まされ、公務員に、そして社会人に育っていった学生に代わり、感謝の意を表したい。素晴らしい麗澤教育をありがとうございました。



大貫啓行教授 略歴

昭和18年東京都生まれ、母の郷里青森に疎開、高校卒業までの子供時代を青森で過ごす。青森高校を経て、昭和42年東京大学法学部（公法学科）卒業。

国家公務員（I種法律職）として、昭和42年から平成8年まで30年間勤務。

国家公務員としての主なポスト：在北京I書、警視庁外事I課長、内閣調査室国際部主管、防衛庁調査I課長、警察庁教養課長、秋田・長崎県警本部長、特別捜査幹部研修所長、警察庁国際部長（初代）、中国管区警察局長

主な研修履歴（例示）：警察大学校（幹部としての主要全課程）、中華民国（台湾）中央警官学校（現・警政大学で中国研究）、外務研修所（中国研修）、防衛研修所（中央省庁課長クラス幹部研修）

海外勤務・出張など（主要なもの例示）：中華民国（台湾）及び米国（ワシントン）で情報関係機関への長期出張（各6月～1年、研究目的）、中国（北京）駐在大使館（I書）、国連主催国際会議政府代表やサミット公式随員を含め国際会議出席多数

平成8年7月（集中講義で同年4月に遡って授業実施）から平成26年3月まで、麗澤大学経済学部教授（内、平成21年4月以降は特任教授）。

主な担当教科：法学、政治学、行政法（行政学）、中国政治経済、リスクマネジメント

主要研究テーマ：危機への対応（主に地方自治体など行政レベルの課題として）

*公務員としての実務経験を活かし、研究者としての研究と行政の連携に努めた。自治体の求めに応じて助言、委員就任等要請には積極的に応じた。市民への啓発の手段としてマスメディアへも積極的に応じた。以下、主要なものを例示。

- ・川崎市顧問・危機管理アドバイザー（平成16年から26年まで10年間）をはじめ、鎌ヶ谷市、立川市などで各種実務に携わった。
- ・（財）社会安全研究財団、（財）日本防犯設備協会、（財）消防設備安全セン

ター、(財)安全保障貿易情報センターなどで顧問や審議会会長などを引き受けた。

・警察大学校、国土交通大学校、財務省税関研修所などの専門講師、非常勤講師など多数。財務・法務・防衛・警察など各省庁での講演など多数。

*賞罰：瑞寶中綬章（平成25年春）

大貫啓行教授 主要業績

論文

1. 警察学論集掲載主要論文
「管理者の心構え」(90・11 & 12)
「所属長としての心構え」(94・2)
「ジュネーブ警察幹部国際会議シンポジウムについて」(94・8)
「組織の要・プレーイング・マネジャー」(94・12)
「第9回国連犯罪防止犯罪者処遇世界会議について」(95・12)
2. 「第9回国連犯罪防止会議」(共) ジュリスト (95・10・15)
3. 「時間の経過はわれわれの味方だ」週刊エコノミスト (97・4・8)
4. 「災害に関する危機管理：雲仙普賢岳噴火災害警備を指揮した経験から」麗澤大学紀要第63巻 (96・12)
5. 「国際情報機関の存在意義の考察：我が国での創設の必要性」麗澤大学学際ジャーナル第5巻1号 (97・3)
6. 「わが国対外姿勢の一考：察背筋を伸ばした自己主張のある堂々たる日本人を再生させるために」本学紀要第64巻 (97・7)
7. 「警察学科創設について：法学部教育に関する一考察」本学学際ジャーナル第5巻2号 (97・9)
8. 「法学部に警察関係学科を創設しよう」公共政策研究会・日経新聞主催・警察大学校警察政策研究センター「21世紀の社会安全を考える論文集」(98・5)
9. 「ペルー事件の考察」本学紀要第65巻 (97・12)
10. 「文化大革命発生原因の考察」本学学際ジャーナル第6巻1号 (98・5)
11. 「公務員におけるモラルハザードの考察」本学紀要第66巻 (98・7)
12. 「文革へと至る革命中国の歩みの考察」本学学際ジャーナル第6巻2号 (98・9)
13. 「情報技術の発展に伴うマイナス面への対応上の問題点」本学紀要第67巻 (98・10)
14. 「文化大革命から天安門事件へと至る中国における政治状況の考察」本学紀要第7巻 (99・3)
15. 「クリントン米大統領の砲艦外交の危うさ」本学紀要第68巻 (99・7)
16. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察」本学学際ジャーナル第7巻2号 (99・12)
17. 「公務員・政治家における倫理の考察」本学紀要第69巻 (99・12)
18. 「続／NATO軍によるユーゴ空爆の考察」本学学際ジャーナル第8巻1号 (00・3)
19. 「第2次チェチェン戦争の考察」本学紀要第70巻 (00・7)
20. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察(その3)」本学学際ジャーナル第8巻2号 (00・9)
21. 「警察刷新委緊急提言考」本学紀要第71巻 (00・12)

22. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察(その4)」本学学際ジャーナル第9巻1号(01・3)
23. 「国家公務員における意識改革の現状(その1)」本学紀要第72巻(01・3)
24. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察(その5)」本学学際ジャーナル第9巻2号(01・9)
25. 「国家公務員における意識改革の現状(その2)」本学紀要第73巻(01・12)
26. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察(その6)」本学学際ジャーナル第10巻1号(02・3)
27. 「国家の在り方に関する基本問題～日本国家の戦略的危機管理を考える」本学経済社会総合研究センター Working Paper(02・3・1)
28. 「日中国交樹立直後の北京～国交樹立30周年にあたって～」本学中国研究(02・5)
29. 「国家公務員における意識変革の現状(その3)」本学紀要第74巻(02・7)
30. 「NATO軍によるユーゴ空爆の考察(その7)」本学学際ジャーナル第10巻2号(02・9)
31. 「危機に対する行政の役割(総論)」『都市問題研究』第54巻5号、都市問題研究会(02・5・20)
32. 「国家公務員における意識変革の現状(その4)」本学紀要第75巻(02・1)
33. 「第2次チェチェン戦争に対する評価変更の経緯」本学学際ジャーナル第11巻1号(03・3)
34. 「国際テロリズムを巡る最近の動きに関する考察」本学経済研究 Vol. 11 - 1(03・3)
35. 「北朝鮮による拉致及び工作船問題の考察」本学論叢14(03・3・1)
36. 「自治体とリスクマネジメント」『都市問題』第94巻5号、東京市政調査会(03・5)
37. 「国家公務員における意識変革の現状(その5)」本学紀要第76巻(03・7)
38. 「その後の旧ユーゴ情勢～2002年」本学学際ジャーナル第11巻2号(03・9)
39. 「国家公務員における意識変革の現状(その6)」本学紀要第77巻(04・1)
40. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察(その1)」本学学際ジャーナル第12巻1号(04・3)
41. 「国家公務員における意識変革の状況(その7)」本学紀要第78巻(04・7)
42. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察(その2)」本学学際ジャーナル第12巻2号(04・9)
43. 「国家公務員における意識変革の現状(その8)」本学紀要第79巻(05・1)
44. 「グランドデザインの描き手を欠いたさまよえる時代」本学論叢16(05・2・28)
45. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察(その3)」本学学際ジャーナル第13巻1号(05・3)
46. 「04年後半のチェチェン関連情勢の推移」本学学際ジャーナル第13巻1号(05・3)

47. 「グランドデザインの描き手を欠いた時代」 本学論叢 (05・2)
48. 「戦争下の人権・反テロに関する考察」 本学経済研究 Vol. 13 - 1 (05・3)
49. 「国家公務員における意識変革の現状 (その9)」 本学紀要第80巻 (05・7)
50. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その4)」 本学学際ジャーナル第13巻2号 (05・9)
51. 「国家公務員における意識変革の現状 (その10)」 本学紀要第81巻 (06・1)
52. 「同上 (その11)」 本学紀要第82巻 (06・7)
53. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その5)」 本学学際ジャーナル第14巻1号 (06・3)
54. 「国家公務員における意識変革の現状 (その12)」 本学紀要第83巻 (07・1)
55. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その6)」 本学学際ジャーナル第14巻2号 (06・9)
56. 「国家公務員における意識変革の現状 (その13)」 本学紀要第84巻 (07・7)
57. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その7)」 本学学際ジャーナル第15巻1号 (07・3)
58. 「泥沼化の様相を深める06年イラク情勢の推移」 本学経済研究 Vol. 15 - 2 (07・9)
59. 「国家公務員における意識変革の現状 (その14)」 本学紀要第85巻 (07・12)
60. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その8)」 本学学際ジャーナル第16巻1号 (08・3)
61. 「国家公務員における意識変革の現状 (その15)」 本学紀要第86巻 (08・7)
62. 「反テロ戦争下の人権に関する備忘録 (その2)」 本学経済研究 Vol. 16 - 1 (08・3)
63. 「中国、国家・社会変化の方向に関する考察 (その10)」 本学学際ジャーナル第16巻2号 (08・7)
64. 「国家公務員における意識変革の現状 (その16)」 本学紀要第87巻 (08・12)
65. 「中国情報政策の現状」 本学学際ジャーナル第17巻1号 (09・3)
66. 「自治体における危機管理に関する考察」 大樹総研・大樹レポート Vol. 1 (10・6・20)
67. 「日本人が苦手とする危機への他愛応力」 大樹レポート Vol. 2 (10・9・20)
68. 「若者を元気にする施策～大学キャンパスに～蔓延する閉塞感、卒業生“研究生”制度提案～」 大樹レポート Vol. 3 (10・12・20)
69. 「自治体の危機管理を向上させる首長としての留意点」 大樹レポート Vol. 4 (11・2・20)
70. 「東日本大震災の教訓」 大樹レポート Vol. 5 (11・5・20)
71. 「東日本大震災の教訓 (続)」 大樹レポート Vol. 6 (11・7・1)
72. 「危機管理能力を養成しよう～国民一人一人の受け止めるべき教訓」 大樹レポート Vol. 7 (11・10・1)
73. 「防災を中心とした危機管理能力教育に関する考察」 大樹レポート Vol. 9 (12・2・29)
74. 「国際常識としての情報機関について」 大樹レポート Vol. 10 (12・7・1)

75. 「日本版NSC構想への一論点～情報人材の養成を中心に～」大樹レポートVol. 12 (13・6・30)
76. 「危機管理の視点から見た企業活動における“環境”」大樹レポートVol. 12 (13・6・30)
77. 「何の効果もないODAはすっぱり止めてしまおう」SAPIO (00・9・27)
78. 「KGB流権力掌握術で4年後“プーチン皇帝”が誕生」SAPIO (00・11・8)
79. 「不法滞在者根絶にはこの6つの改革案しかない」SAPIO (02・3・13)
80. 「プーチンに見る官僚的組織掌握術」TOP JOURNAL (01・1)
81. 「綺麗事だけでは生きられない 求められる戦略である外交」TOP JOURNAL (01・2)
82. 「危機管理の実務」セキュリティー研究 (10・10)
83. 「安全に安心して暮らせるまちづくりの進め方」大阪府防犯設備士協会誌 (12・1・26)
84. 「特定秘密保護法を巡る論点について～情報人材の養成～」大樹レポートVol. 13 (13・12)
85. 「今、日本の社会にある危機とは？」Value Creator Vol. 342 (13・11・25)

著書

1. 「中国共産党史入門」白金出版 (72・9・10)
2. 「渦潮」(単著) 白金出版 (82・2・1)
3. 「警察は今」秋田県政を学ぶ会 (88・10・13) (講演を基にしたもの)
4. 「飛翔」白金出版 (89・8・1)
5. 「県民の為に県民と共に」秋田県警察本部教養課 (90・1)
6. 「長崎の日々」長崎県警察機関紙「警鼓」(93・8) (投稿抜粋を基にしたもの)
7. 「基礎法学」(単著) 東京出版 (97・3・1)
8. 「変革～日本の対外姿勢と危機管理」(単著) 廣池学園出版部 (97・9・1)
9. 「21世紀の社会の安全を考える」(応募論文掲載) (財) 公共政策調査会・警察大学校 (98・5)
10. 「都市と危機管理に関する研究～都市の安全と市民の安全」(共同研究テーマ「危機的事象と都市自治体の組織・体制の在り方」論文集) 日本都市センター (99・3～00・3)
11. 「現代中国の群像」本学出版会 (99・4・30)
12. 「国際紛争と日本の選択」本学出版会 (03・6) 改訂増補版 (08・4)
13. 「暮らしの法学～安心を支える社会システム」本学出版会 (04・6・10)
14. 「暮らしの行政～私と公の共存システム」本学出版会 (04・6・10)
15. 「説得力の養成～暮らしの中の法律学」本学出版会 (06・4・10)
16. 「中国はどこに向かうか」白金出版 (09・5・1)